

## 「沖縄県民大会」

2015年05月20日

「沖縄県民大会」が17日、『戦後70年 止めよう辺野古新基地建設！』という主題で那覇市の野球場で開かれた。県内外から3万5千人もの人々が参加した。5月3日、横浜の臨港パークで行われた「憲法集会」には予定を大きく上回り3万人が集まった。人口比が違う沖縄で3万5千人が集まったというから、沖縄県民の辺野古新基地建設を許さない強い意志がはっきりと示され、また、政治のあり方を問う大会であった。敗戦後、米国の施政権下に置かれ人権は無視された。本土復帰後も、構造的な差別の中に置かれ続けた。大会の決議文から一部を掲載したい。

「(前略) 私たち県民は自ら基地を提供したことは一度もない。普天間基地も住民が収容所に入れられている間に建設され、その後も銃剣とブルドーザーによる土地の強制接収によって拡張されてきた。これは占領下においても私有財産の没収を禁じたハーグ陸戦法規に明白に違反するものである。国際法に違反して造られた米軍普天間基地は閉鎖・撤去こそが『唯一の解決策』である。(中略) よって、日米政府は沖縄県民の民意に従い、米軍普天間基地の閉鎖・撤去、辺野古新基地建設・県内移設を断念するよう強く要求する。以上、決議する。」

翁長雄志県知事は、大会での挨拶の最後で下記のように語っている。「新辺野古基地はオスプレイを100機以上持つてくるために設計はされている。これから全てオスプレイは向うに置かれるんだということがあの森本さんの著書の中に書いてある。ですから今、本土で飛んでいるオスプレイも一定程度が過ぎたら、みんな沖縄に戻ってくる。これが私は日本の政治の墮落だということを申し上げている。どうか、日本の国が独立は神話だと言われぬように安倍総理、頑張ってください。うちなーんちゅ、うしえーてー、ないびらんどー(沖縄人をないがしろにはしてはいけませんよ)。」

1961年～1964年まで、第3代琉球列島高等弁務官を務めたポール・W・キャラウェイは「沖縄住民には自治は神話に過ぎない」と言い放った。翁長県知事はキャラウェイの言葉から「日本の独立は神話だ」と言われぬようにと、安倍首相を諭している。

先日、横田基地にオスプレイが配備されると公表され、どこまで米国の言いなりになるのかとあきれ果てた。国民の命の安全を顧みず、米国追従に走る政治家たちは、どの国の政治家なのかと怒り心頭である。その矢先に、ハワイでオスプレイが墜落炎上し、死傷者が出た。オスプレイは鷹科の「ミサゴ」という意味だそうである。オスプレイは再三墜落事故を起こし「未亡人製造機」とあだ名がついた飛行機である。危険極まりないオスプレイが本土を飛行し、それら全てが沖縄に配備されるという。まさに「沖縄人をないがしろにするな」である。

「辺野古基金」が発足した。沖縄の政治家、経済人などが共同代表で、本土からはアニメ映画監督の宮崎駿氏、ジャーナリストの鳥越俊太郎氏、作家の佐藤優氏、亡くなった菅原文太氏の奥様・文子氏、在日沖縄人と自称する写真家の石川文洋氏が加わっている。使用法はまだ決まっていないそうだが、辺野古新基地反対運動に用いられることは確かである。目標は3億5千万円で、既に2億円を超えている。本土にいて、何もできないもどかしさがあるが、募金には協力できる。私は新聞を見た日に送金した。多くの方々が賛同し、国民的なうねりになっていくことを期待している。パソコンで「辺野古基金」にアクセスすれば、送り先はすぐ分かる。